

専門科目【在宅看護】

授業科目名	在宅看護学特論Ⅱ <i>Advanced Studies in Home Care Nursing II</i>					担当教員	小野 ミツ 西村 和美				
開講年次	1年前期	セメスター	1			時間数(単位数)	30(2)				
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義			使用教室					
授業の目的	在宅療養者の健康と生活に活用できる理論やモデルを応用して、家族アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメントを行う能力を修得する。										
到達目標	1. 在宅看護の利用者・家族の安全で安心した療養生活を支援するために、高度で専門的な身体・心理・社会的な診断能力を持つ。 2. 在宅看護に関連する専門知識・理論を活用したアセスメントに基づく卓越した看護実践ができる。 3. 在宅看護における包括的アセスメントについて検討することができる。										
DPとの関連	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6 (保健)	DP6 (CNS)	DP7 (CNS)	DP6 (助産)	DP7 (助産)	DP8 (助産)
		◎					○	○			
授業計画	1回 ICFモデルに基づいた在宅療養生活の支援 ICFの理念とICFモデルについて学ぶ。 2回 在宅看護におけるフィジカルアセスメント 在宅療養者のフィジカルアセスメントの知識、技術について学ぶ。 3回 在宅看護における症状・徴候のアセスメント 在宅療養者の異常の早期発見等のためのアセスメント技術の方法を学ぶ。 4回 自立を支援する理論と方法(1) 在宅療養者のセルフケアおよびセルフマネジメント理論を学ぶ。 5回 自立を支援する理論と方法(2) 在宅療養者とその家族のセルフケアアセスメントの知識と技術について学ぶ。 6回 在宅看護における生活環境のアセスメント(1) 在宅療養者の安全で安心な療養生活のための環境アセスメントについて学ぶ。 7回 在宅看護における生活環境のアセスメント(2) ICFモデルに基づき、在宅療養者の生活行動・社会参加にかかわる生活環境のアセスメントについて学ぶ。 8回 家族アセスメントと家族支援(1) 家族アセスメントに必要な理論を学ぶ。家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論(ジェットコースターモデル、二重ABC-Xモデル)。 9回 家族アセスメントと家族支援(2) 渡辺式家族アセスメントモデルを学ぶ。 10～11回 家族アセスメントと家族支援 在宅療養者とその家族の事例について、渡辺式家族アセスメントモデルを用いて、家族アセスメントを展開し支援策を検討する。 12～15回 在宅看護における包括的アセスメントの特性 在宅療養者とその家族の事例について、包括的アセスメント(ICFモデル、フィジカルアセスメント、症状・徴候アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメント、家族アセスメント)を行う。さらに、在宅看護における包括的アセスメントについて検討する。										
学習方法	主体的に学習に取り組めるテーマに関する大学院生のプレゼンテーションと討議を基本とする。										
オフィスアワー	月曜日・水曜日の昼休み										

テキスト	特に指定はしない
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山内豊明：事例から学ぶ訪問看護におけるフィジカルアセスメント－カンファレンス形式で、判断のポイントを徹底解説！（コミュニティケア 8（12））．東京，日本看護協会出版会，2006．</li> <li>・ 山内豊明：フィジカルアセスメント ガイドブック－目と手と耳でここまでわかる．東京，医学書院，2011．</li> <li>・ 山内豊明：生命・生活の両面から捉える訪問看護アセスメント・プロトコル 改訂版．東京，中央法規出版，2015．</li> <li>・ 日本訪問看護財団：訪問看護のフィジカルアセスメントと急変対応．東京，中央法規出版，2016．</li> <li>・ 阿部勉編：生活期リハ・訪問リハで役立つフィジカルアセスメント リスク管理ハンドブック．名古屋，gene，2014．</li> <li>・ 酒見英太監修：ジェネラリストのための内科診断リファレンス：エビデンスに基づく究極の診断学をめざして．東京，医学書院，2014．</li> <li>・ 上田剛士：高齢者診療で身体診察を強力な武器にするためのエビデンス．東京，シーニュ，2014．</li> <li>・ 障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改定版，東京，中央法規出版，2002．</li> <li>・ 上田敏：リハビリテーション 新しい生き方を創る医学．東京，講談社，1996．</li> <li>・ 上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用：人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか．東京，きょうされん，2005．</li> <li>・ 大川弥生：新しいリハビリテーション．東京，講談社，2004．</li> <li>・ 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション，東京，中央法規，2004．</li> <li>・ 並河正晃：老年者ケアを科学する．東京，医学書院，2002．</li> <li>・ 澤口裕二：アウェアネス介助論：気づくことから始める介助論【上巻】解剖学・生理学と基礎的理解．東京，シーニュ，2011．</li> <li>・ 澤口裕二：アウェアネス介助論：気づくことから始める介助論【下巻】接触と動きと介助の実践．東京，シーニュ，2011．</li> <li>・ Friedman, M.M. : FAMILY NURSING Theory and Assessment. 1986, 野嶋佐由美訳：家族看護学：理論とアセスメント，東京，へるす出版，1993．</li> <li>・ 鈴木和子，渡辺裕子：家族看護学 理論と実践 第4版．東京，日本看護協会出版会，2012．</li> <li>・ 野嶋佐由美，渡辺裕子編：家族看護選書 第1巻 家族看護の基本的な考え方．東京，日本看護協会出版会，2012．</li> <li>・ 野嶋佐由美，渡辺裕子編：家族看護選書 第4巻 在宅での家族への看護．東京，日本看護協会出版会，2012．</li> <li>・ 野嶋佐由美，渡辺裕子編：家族看護選書 第6巻 家族に向きあう看護師のジレンマとパートナーシップ形成．東京，日本看護協会出版会，2012．</li> <li>・ 森山美知子編：ファミリーナーシングプラクティス：家族看護の理論と実践．東京，医学書院，2001</li> <li>・ L.M. ライト他，小林奈美監訳：病の苦悩を和らげる家族システム看護．東京，日本看護協会出版会，2011．</li> <li>・ ロザリンダ・アルファロールフィーヴァ著，本郷久美子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断 第7版，東京，医学書院，2012．</li> <li>・ リンダ J. カルペニート，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック 第10版，東京，医学書院，2014．</li> <li>・ 宇都宮宏子，山田雅子編：看護がつながる在宅療養移行支援－病院・在宅の患者像別看護ケアのマネジメント．東京，日本看護協会出版会，2014．</li> <li>・ Christine A Tanner: Clinical Judgment and Evidence-Based Practice: Toward and Pedagogies of Integration. Journal of Nursing Education, 47 (8) : 335-336, 2008.</li> </ul>
評価方法	授業・討議への参加度（50%）、学習への取り組み・プレゼンテーション（50%）